

第十講

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合で、送り仮名を省いたところがある。

楚^ノ 莊王^ニ 賜^フ 群臣^ニ 酒^ヲ。日暮^シ 酒^ヲ 酣^ニ 燈燭^ヲ 滅^ス。乃^チ 有^リ 人^ノ

引^ク 美人^ノ 衣^ヲ 者^上。美人^ノ 援^ヒ 絶^チ 其^ノ 冠^ヲ 纓^ヲ、告^ゲ 王^ニ 曰^ク、「今^イ 者^マ 燭

滅^ス、有^リ 引^ク 妾^ヲ 衣^ヲ 者^上。妾^ノ 援^ヒ 得^テ 其^ノ 冠^ヲ 纓^ヲ 持^テ 之^ヲ。趣^ニ 火^ヲ 来^リ 上^ル、

視^ヨ 絶^ツ 纓^ヲ 者^ヲ。」王^曰、「賜^ヒ 人^ニ 酒^ヲ、使^ム 醉^ヒ 失^セ 礼^ヲ。奈^ゾ 何^ゾ 欲^シ 顯^ス」

婦^ノ 人^ノ 之^ノ 節^ヲ 而^シ 辱^メ 士^ヲ 乎^ヤ。」乃^チ 命^ジ 左^ニ 右^ニ 曰^ク、「今^イ 日^ニ 与^ト 寡^ノ 人^ノ

飲^ム。不^ル 絶^タ 冠^ヲ 纓^ヲ 者^ハ 不^ト 權^ム。」群^ノ 臣^ノ 百^ニ 余^ノ 人^ノ、皆^シ 絶^ニ 去^リ 其^ノ 冠^ヲ

纓^ヲ 而^シ 上^レ 火^ヲ。卒^ニ 尽^シ 權^ヲ 而^シ 罷^ム。居^ル 二^ノ 年^ノ、晋^ト 与^ヒ 楚^ヲ 戰^フ。有^リ 一

臣常在^ニ前^ニ。五合^{タビ}五獲^{シテ}首^ヲ却^ケ敵^ヲ、卒^ニ得^{タリ}勝^ツ之^ニ。莊王怪^{ミテ}而
 問^{ヒテ}曰、「寡人德薄、未^ダ嘗^テ異^ニ子^ヲ。子何故^ニ出^テ死^ニ不^ル疑^ハ如^{キヤト}」
 是^ク。對^{ヘテ}曰、「臣当^{レリ}死^ニ。往^キ者^ニ醉^{ヒテ}失^{セシ}礼^ヲ、王隱^{シテ}忍^シ、不^ニ暴^{アラハシ}而
 誅^セ也。臣終^ニ不^ク敢^ズ以^テ蔭蔽^ニ之^ニ德^ニ而^{シテ}不^ク顯^ス報^ル王^也。臣乃^ハチ
 夜^ニ絶^ツ纓^ヲ者^也。」

〔說苑〕

(注) ○引美人衣——女官(美人)の着物を引き、いたずらをする。 ○美人——王宮の女官。

○援絶——引きちぎる。 ○冠纓——かんむりのひも。これで首に固定する。

○婦人之節——婦人の貞節のこと。 ○五合——五度合戦すること。

問一 傍線Ⅰを口語訳せよ。

問二 傍線Ⅱ「群臣百余人、皆絶去其冠纓而上火」とあるが、その結果どのようなようになったのか。簡潔に説明せよ。

問三 傍線Ⅲの「出死不疑」の解釈は次のどれが最も適当か。記号で答えよ。

- (a) 君主から死罪を与えられても君主の行為を疑わない。
- (b) 何とか戦場から脱け出して家族のもとに帰ろうとする。
- (c) 君主から受ける報償のことは疑わない。
- (d) 死ぬかも知れぬ戦場にふみ止まり、ひるまず戦う。

問四 傍線Ⅳに「臣当死」とあるが、「臣」は何をしたから死罪に当るのか。臣の過失を説明せよ。

問五 傍線Ⅴ「不敢以蔭蔽之徳而不顯報王也」の書き下し文は次のどれが最も適当か。記号で答えよ。

- (a) 敢へて蔭蔽の徳を以てして^{あらは}顕に王に報いずんばあらざらんや。
- (b) 敢へて蔭蔽の徳を以てして顕に王に報いずんばあらざるなり。
- (c) 敢へて蔭蔽の徳を以てして顕に王に報いざるにあらざるなり。
- (d) 敢へて蔭蔽の徳を以てして顕に王に報いざるにあらざらんや。